

「朝鮮学報」第233輯 別刷  
平成 26 年 10 月 刊

項目応答理論による  
韓国語語彙能力テストの開発

齊 藤 信 浩  
玉 岡 賀 津 雄

# 項目応答理論による 韓国語語彙能力テストの開発

齊 藤 信 浩

玉 岡 賀 津 雄

【要旨】 언어습득을 검증하는 실험적인 연구에 있어서는 우선 학습자의 도달도를 명시하고 실험을 실시해야 하지만, 한국어습득 연구에서는 아직까지 유효한 능력 측정 시험이 없었다. 본 연구는 습득연구를 위한 한국어 능력 측정시험을 항목응답이론(Item Response Theory; IRT)을 이용하여 작성한다. 그 목적을 위해 어휘능력을 기준으로 하여 전체 한국어 능력을 예측한다. 한국어능력시험으로부터 수집된 단어를 선행연구인 교육기간어휘를 참조하면서 추출하고 문제지를 작성했다. 그리고 통계적인 검증을 통해 학습자의 도달도를 명시하는 이 한국어 어휘능력시험의 측정력을 증명했다. 그 결과 3가지의 지표(항목난이도, 실질선택지수, 변별력지수)로 검토하고, 96문 중 측정의 간편함을 달성하기 위해 최소수가 되는 48문을 추출했다. 학습기간이 24개월미만인 학습자와 24개월 이상인 학습자 사이에는 품사별로도 어종별로도 유의차가 보였다. 또 신뢰성검증을 한 결과 0.96라는 높은 숫자를 볼 수 있었다. 부록으로서 본 연구에서 개발된 한국어 어휘능력시험을 게재한다. 이 측정시험은 이 학회지 상을 빌려서 공개하여 널리 사용됨을 바란다.

## 目 次

- |                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 研究目的           | 3. 語彙の選定                |
| 2. 項目応答理論         | 3.1. 韓国語能力試験と教育基幹語彙との照合 |
| 2.1. 項目応答理論の前提条件  | 3.2. 下位カテゴリの設定          |
| 2.2. 項目応答理論で用いる指数 |                         |

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 4. 信頼性と妥当性の確保のための方略      | 6.3. 下位群と上位群の差の検定        |
| 4.1. 問題文自体の語彙レベル調整       | 6.3.1. カテゴリ別に見た下位群と上位群の差 |
| 4.2. 四択の設問の語彙レベル調整       | 6.4. 下位カテゴリによる各レベル間の差の検証 |
| 4.3. 四択の品詞と語種の統一         | 6.4.1. レベルごとに見た品詞の得点比較   |
| 4.4. パッチムによる語彙の予測の排除     | 6.4.2. レベルごとに見た語種の得点比較   |
| 5. 調査方法                  | 7. 実質選択肢数の検証             |
| 6. 調査結果                  | 8. 総括                    |
| 6.1. 全体の得点分布             |                          |
| 6.2. 項目応答理論による通過率と実質選択肢数 |                          |

## 1. 研究目的

言語習得の研究では、学習者の言語能力を調査時点で客観的に把握する指標を確保することが重要である。実証研究等でしばしば言及されるような単に言語の学習歴や所属しているクラスのレベルを記述するだけでは、個々の学習者の言語能力を正確に示す指標とは言えない。韓国語の習得においては、韓国語能力試験 (TOPIK) やハングル能力検定試験の合格級によって言語能力を大まかに示すことができる。しかし、特定の級に合格してからも学習を続けている場合、習得調査を行う時点での言語能力の代用指標として使用するには不十分である。アメリカ外国語教育協会は、OPI (Oral Proficiency Interview) の略称で広く知られている面接による会話能力判定法を開発して、口頭でのコミュニケーション能力の測定を試みている。また、総括的な日本語能力の測定においては、SPOT (Simple Performance-Oriented Test) と呼ばれる自然な発話速度で次々と読み上げられる文を聞きながら、解答用紙の空欄にひらがな1文字を書き入れる方式のテストが使われている (c.f. 鎌田修1998, フォード丹羽順子・小林典子・山元啓史1995, 小林典子・フォード丹羽順子・山元啓史1996)。OPI や SPOT の妥当性や信頼性については、様々な検証が行われており、言語能力測定テストとして一定の評価が得られてい

る (Miura 2002, 岩崎典子2002)。

言語能力を測定するテストには3つの特性が求められる。それらは、(1) 対象者の標準化が可能な正確さ、即ち妥当性、(2) 他の対象者への汎用的な適用が可能な再現性、即ち信頼性、そして、(3) 実施のための簡易性<sup>(1)</sup>である。石田敏子 (1992) では、(1) 妥当性と (2) 信頼性が評価の測定として最も重要なものであると述べているが、加えて、現実的な問題としてテストの所要時間が長くなると、受験者の疲労により判断力が下がり、妥当性と信頼性の指標にも影響してくる。従って、必要最小限度のテスト項目で、被験者の言語能力を測定することが肝要である。宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘 (2011) は、第二言語として日本語を学習している中国語母語話者の語彙能力を測定するために、最小数の項目48問で上記の3つの特性を満たしたテストを開発した。彼らは、大友賢二・中村洋一・秋山實 (2002) によって開発された項目応答理論用のテスト・データの分析プログラム (Test Data Analysis Program; T-DAP ver.2.0) を用いて、項目応答理論 (Item Response Theory; IRT) に基づいてテストの質問項目を分析し、各質問項目の適切性が高く、全体として信頼性の高いテストであることを示した。この語彙能力テストは既に複数の研究で使用され、信頼性が再確認されている (c.f. 齊藤信浩・玉岡賀津雄・母育新 2012; 大和祐子・玉岡賀津雄・初相娟 2013 など)。

韓国語の習得研究の際には、TOPIK などの認定試験の級や在籍しているクラスレベル、或は学年によって、被験者のレベル説明がされることがしばしば見られるが、上述のように、このような指標では、被験者の調査時点での言語能力の指標とすることはできず、何らかの方法で調査時点の言語能力を測定する簡便な測定テストの開発が求められる。そして、その測定テストは実施する受験者集団ごとに揺れが発生する相対的得点基準ではなく、絶対的得点基準によって検討された、測定力が保証された汎用性のあるものでなければならない。そこで本研究では、宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘 (2011) の日本語語彙能力テストの枠組みを援用し、大友賢二・中村洋一・秋山實 (2002) によって開発された項目応答理論用のテスト・データの分析プログラム (Test Data Analysis

Program; T-DAP ver.2.0) を用いて、習得研究の能力測定の指標となる、韓国語の語彙能力テストを開発することを目的とする。

## 2. 項目応答理論

### 2.1. 項目応答理論の前提条件

古典的テスト理論 (Classical test theory) ではテスト結果の記述は、平均、標準偏差、偏差値、信頼度係数<sup>(4)</sup>などによって求められ、これらは受験者の特性による変動を受け、テストの汎用的な測定として難点があった。項目応答理論は古典的テスト理論で起こる測定結果の揺れに対する批判から発達してきたテスト理論であり、受験者集団から得られた得点を基に、受験者の能力値を絶対値に置き換え (受験者能力パラメータ)、問題項目の難易度などの特性も絶対値に置き換え (項目特性パラメータ)、これらの項目特性のパラメータと、受験者能力のパラメータを考慮に入れたモデルにより、項目に対する応答パターンを、数学的なモデルによって予測する理論である (中村洋一2002:31)。即ち、テストの測定結果を絶対値で尺度化して表すテスト理論である。受験者の能力や問題項目の特性等は、受験者の個々の特徴や能力によって問題の難易度に差が生じる、いわば曖昧なものである。それらを自然対数によって絶対値へと置き換え、受験者能力と項目特性の相互の関係を検証することにより、その受験者がこれくらいの能力であれば、常にこれくらいの問題項目には解答できる、という確率を導き、その問題項目の測定精度を保証するのである。問題項目の難易度 (測定精度) が保証されていれば、異なった被験者群 X と Y にテストを行っても、ほぼ同得点が得られるのである。

テスト得点を自然対数によって尺度化する項目応答理論の枠組みでは、大友賢二 (1990) において次のような利点が挙げられている。1つ目は、被験者の能力推定が異なった項目やテストで用いても共通の尺度で求められること、2つ目は、異なった被験者間の比較を共通の尺度で行えること、3つ目は測定の精度が古典的テスト理論よりも高いことである。項目応答理論は、TOEFL、TOEIC などの英語テストで実施運用

され、大きな効果を発揮している。また日本語能力試験 (JLPT) や SPOT や個別の大学でのプレースメントテストの得点分析にも用いられており (野口裕之・倉元直樹2009, 楊元・酒井たか子・小林典子2012, 宮内俊慈・平田裕・小山揚子2006), テスト項目の尺度化において極めて有効な方法を提供している。

Lord (1952) は項目応答理論において2つの前提を挙げている。第1に、ある項目は他の要素に影響されてはならず、その項目に正答する確率は統計的に互いに独立してはならないという「局所独立の仮説 (assumption of local independence)」である。例えば、語彙能力を測定するに当たって、文脈や背景知識がなければ解答できない設問は本来の測定意図を反映できず、正答確率を統計的に等しくすることを妨げる。また、1問目に正解していなければ、2問目が解答できないような影響が相互に排除されている必要がある。第2に、単一の要素だけを測定するという「一次元性の仮説 (assumption of unidimensionality)」である。測定する要素に複数の異なった要素、例えば、語彙能力を測定するはずが、活用知識や共起関係の知識が要求された場合、1つの要素である語彙能力の測定の妨げになる。<sup>(5)</sup> これら2つの前提の上で、ラッシュ・モデル (the Rasch Model) の項目特性曲線 (item characteristic curve: ICC) に PROX 法 (approximation procedure) によって導き出された自然対数によるロジット得点 (Logit score) を当てはめて、難易度を線形尺度で表すのが項目応答理論である。<sup>(6)</sup>

まず、ラッシュ・モデルと PROX 法の前提条件に触れておく。ラッシュ・モデルには3つの前提条件がある。1つ目は、各項目の弁別力が同一であるということである。例えば、30項目のテストのうちで、10項目は3択問題で、10項目は2択問題で、10項目は4択問題であれば、項目の弁別力は甚だしく異なってしまう。2つ目は、当て推量の可能性が最少であるということである。当て推量で得点が取れてしまうテストは当然、良いテスト問題とは言えない。2択問題の場合、当て推量で当たる確率は0.500、4択問題の場合は0.250であり、この確率が最小に設定されていなければならない。3つ目はモデルを成立させる統計量とし

て、被験者の数が100程度は求められるということである<sup>(7)</sup>。以下、3節の妥当性の確保の箇所ではラッシュ・モデルの前提を成立させるようにテスト問題を組んだ。

次に、ラッシュ・モデルで示される項目特性曲線に当てはめるためのロジット得点を導く PROX 法の前提条件は2つある。1つは、設問項目の困難度が正規分布することであり、もう1つは、被験者の能力が正規分布することである。これについては、3節の語彙の構成の中で設問項目の難易度の正規分布を、4節で被験者の能力が正規分布するように調査計画の作成を行った。

## 2.2. 項目応答理論で用いる指数

T-DAP ver.2.0で用いられる主な指数は、項目困難度 (item difficulty index: DIFF)、項目弁別力指数 (item discrimination power index: DISC)、実質選択肢数 (actual equivalent number of options: AENO) の3つである。まず、項目困難度は、その問題の正解率に等しい。正誤の確率は50%であるため0.500と置き、50%のうちで4択の当て推量で当たる確率は0.500の4分の1の0.125と考える。そのため、Nitko (1983) で示された最適困難度を求めるモデルは  $0.500 + 0.500 \times (1/NC)$  であり (NC は項目数)、4択の場合、当て推量による確率も含めた最適困難度は0.625となる。これは平易に換言すれば、100点満点のテスト問題の平均点は62.5点くらいが望ましく、私達の経験則から見ても通常のテスト問題の難易度の設定であると言える。この基準値は T-DAP では後述の項目の適切さを導く指標の基準値となっている。

項目弁別力指数は、下位テスト<sup>(8)</sup>の得点で高い得点を示している被験者がその同じ下位テストの他の項目でも同様に高い得点を示しているかどうかを見る指数である (大友賢二1989)。つまり、できる項目は常にできている、できない項目は常にできていないということを示し、できる項目とできない項目を分ける指数である。項目弁別力指数は、点双列相関係数  $r_{pbi} = (\bar{X}_p - \bar{X}_q / St) \sqrt{pq}$  で求められる<sup>(9)</sup>。  $\bar{X}_p$  は正解者の下位テストの平均であり、  $\bar{X}_q$  は不正解者の下位テストの平均であり、これらの差を

下位テストの標準偏差 ( $St$ ) で割り、項目の正答率 ( $p$ ) と項目の誤答率 ( $q$ ) の積の平方根を掛けて求められる数値である。項目弁別力指数の最適度は、大友賢二 (1989) では0.600が妥当であるとされている。

最後に、実質選択肢数は、4肢選択問題の場合、1問が正答で3問が錯乱肢であるが、錯乱肢の判別が極端に容易であった場合、実質的には4択ではなく、2択になってしまっている場合がある。前述の項目困難度における4択問題の場合の最適困難度は0.625であるが、正答率 ( $p_i$ ) から最適困難度の差を求めたとき、0.375が誤答率 ( $1 - p_i$ )となる。この0.375は、設問 (A) を正答と仮定すれば、それを0.625とし、残りの3つの錯乱肢に均等に0.125ずつ配分して、設問 (B) を0.125、設問 (C) を0.125および設問 (D) を0.125とするのが最適な状態である。これが均等にならず、設問 (A) が0.625、設問 (B) が0.375、設問 (C) が0.000、設問 (D) も0.000となった場合には、設問 (C) と設問 (D) を選択した回答者がいないため、4択は実質的には2択になってしまう。つまり、設問 (C) と設問 (D) は、設問の選択肢としての役割を果たしていないことになる。実質選択肢数は正答率に左右される数値であり、正答率 ( $p_j$ ) と置くと、実質選択肢数は以下の式で求められる。

$$\bar{R} = 2^I \quad I = - \sum_{j=1}^n p_j \log_2 p_j$$

項目困難度が0.800の場合、上記の計算式に当てはめると、実質選択肢数は  $\bar{R} = 1.046$  となり、項目困難度が0.200の場合、実質選択肢数は  $\bar{R} = 1.380$  となり、項目困難度が高い (即ち通過率が0.200で低い) 場合には、実質選択肢数は多くなり、項目困難度が低い (即ち通過率が0.800で高い) 場合には、実質選択肢数は少なくなる。

上記の項目困難度、項目弁別力指数および実質選択肢数から、最適化された項目困難度適切度 (appropriateness of difficulty: ADIF)、項目弁別力適切度 (appropriateness of discrimination power index: ADIS)、実質選択肢数適切度 (appropriateness of actual equivalent number of options: AAEN) が導き出され、これらの数値を1の尺度に収まるように標準偏差によつ



て標準化されたのが、標準項目困難度適切度 (standard appropriateness of difficulty: SADIF), 標準項目弁別力適切度 (standard appropriateness of discrimination power index: SADIS), 標準実質選択肢数適切度 (standard appropriateness of actual equivalent number of options: SAAEN) である。基本は項目困難度, 項目弁別力指数, 実質選択肢数を基に計算される。SADIF, SADIS および SAAEN の合計が標準適切度の合計 (standard appropriateness total: SATOT) となり, 総合的な適切さを示す指標とされている。

### 3. 語彙の選定

#### 3.1. 韓国語能力試験と教育基幹語彙との照合

韓国語の語彙能力を測定するために, 特定の語彙を抽出しなくてはならない。そのために, 2つの視点を基準とした。第1の視点は, TOPIK に既出の語彙を基にして, 1級を初級, 2級を初中級, 3級・4級を中級, 5級・6級を上級に分け, 各級ごとに12語を選択する。第2の視点は, 初級から中級段階における既習可能性である。学習者がそれらの語彙を学んでいないのであれば, 学習効果と関連付けた分析にならない。既習語彙の抽出については, 長谷川由起子・曹美庚・大名力 (2012) で選定された教育基幹語彙を援用した。教育基幹語彙とは日本で出版されている主要な24種類の教科書に出現した延べ項目数183,581語のうちの異なり項目数10,032語の中から共通部分を抜き出したものであり, それらの教科書の初級相当部分と中級相当部分に必ず出て来る, 主要教科書24種類の語彙の最大公約数である。図1は, 長谷川由起子・曹美庚・大名力 (2012) から掲載したものである。

教科書の初級相当部分に479語, 中級相当部分に861語が必ず含まれており, 学習者はこれらの語彙を共通で学んでいると推定される。即ち, これらの教科書を使用していない学習者であっても教育基幹語彙の大部分を学んでいることが想定できる。従って, 韓国語能力試験の語彙と教育基幹語彙を照らし合わせて, 初級12語と初中級12語の箇所は教育基幹語彙と被るもののみを選定し, 中級は6語を教育基幹語彙と被るもの

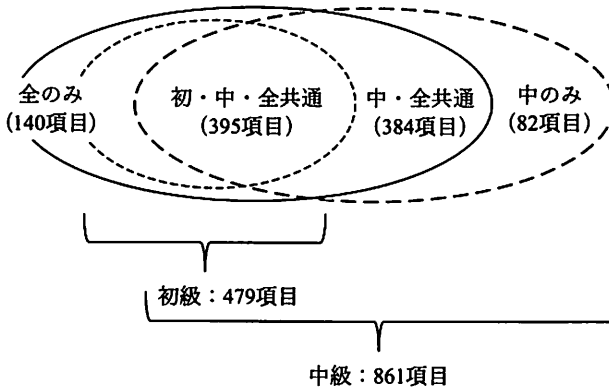


図1 教育基幹語彙 (長谷川由起子・曹美庚・大名力2012より)

を選定し、6語を被らないものから選定した。

### 3.2. 下位カテゴリの設定

図2に示したように、宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘 (2011) が作成した日本語の語彙能力を測定するためのテストでは、品詞と語種の双方の分類から分析できるように語彙が統制されている。下位カテゴリが設けられ、いくつかの要因 (factor) に分けて統制しておくこと、結果の分析を多方面から詳細に分析することが可能である (宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘 2011)。

本研究で作成する韓国語の語彙能力テストもこの枠組みに倣い、図3



図2 宮岡・玉岡・酒井 (2011) の設問構成のモデル



図3 韓国語語彙能力測定の設問構成のモデル

のように品詞と語種の2つの分類を採用した。

具体的には、各レベルの語彙について、形容詞、動詞、名詞の3種類の品詞による下位カテゴリおよび漢字語の語彙(漢字語)と固有語の語彙(固有語)の2種類の下位カテゴリを設定した。名詞と動詞を区別する選定基準であるが、名詞の漢字語の中で、하다<sup>(11)</sup>によって動詞として用いられうる漢字語は名詞として選抜しないことにした。

語種の下位カテゴリを設定するためには、名詞、動詞、形容詞の3種類の品詞に対して均等に外来語を含まなくてはならない。韓国語では、名詞については十分な外来語の語彙が TOPIK と教育基幹語彙の双方に存在した。動詞も少数ながら外来語が散見されたが、形容詞については全く存在していなかった<sup>(12)</sup>。そのため、外来語のカテゴリを日本語の宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘(2011)の構成と同様に立てるのは不可能であった。そこで、固有語と漢字語の2つのカテゴリにし、品詞と語種<sup>(13)</sup>の双方から分析が可能なように下位カテゴリの設定を行った。語彙抽出の全体像を以下、表1に示す。

表1 語彙能力テストの第一次抽出語彙一覧

		1級・2級				3級・4級			(5級・6級)
		教育基幹語彙							
		初級(初級教科書)		中級(中級教科書)		中上級		上級	
形容詞	固有語	크다	가깝다	습쁘다	깊다	서투르다	게으르다	넉너하다	지겹다
		따뜻하다	좁다	무겁다	하얗다	부끄럽다	깜깜하다	질다	느긋하다
	漢字語	유명하다	최송하다	중요하다	피곤하다	한가하다	유쾌하다	우울하다	명망하다
		미안하다	감사하다	필요하다	편리하다	평범하다	귀중하다	공손하다	황당하다
動詞	固有語	차다	보내다	날다	떠나다	그만두다	맞추다	가꾸다	떨다
		만나다	기다리다	버리다	씻다	섞다	묶다	따지다	뜯다
	漢字語	시작하다	공부하다	걱정하다	조심하다	권하다	당하다	단정하다	과장하다
		전화하다	식사하다	연락하다	도착하다	도망가다	기억나다	수선하다	책임지다
名詞	固有語	가게	사람	거짓말	자리	바늘	흙	맞벌이	마무리
		아침	뒤	쓰레기	낚시	안개	만두	울보	개구쟁이
	漢字語	회사	사진	서점	주소	유치원	내복	소감	채식
		병원	영어	결과	한자	목표	포장지	채지	전병

1級と2級は TOPIK と教育基幹語彙に共通するもののみ抽出し、3級と4級は一部のみ教育基幹語彙と共通させ、それ以外は TOPIK 内の語彙とした。5級以上は TOPIK と関連はなく、4級までに出現してい

ない、それ以上の難易度であろうと予測される語彙を配置した。試験問題は韓国語教育の経験がある、大学院博士課程の1名の韓国語母語話者にネイティブチェックを依頼し確認した。加えて、4名の韓国語母語話者に受験してもらい、その得点を見たところ、4名共が満点であり、一致度は100%であった。

本論の中で、1点、重要なことを断わっておきたい。提示される項目(問題文)は提示された項目内の情報で解答を期待するものであり、文脈情報や言外の意味については被験者に考慮しないという大前提である。これは2.1.で言及した、Lord (1952) の局所独立の仮説 (assumption of local independence) と一次元性の仮説 (assumption of unidimensionality) の基本に従っている。文脈や言外の意味を許した場合、どのような文でも成立してしまう。例えば、「롯데호텔은 너무 ( )」の選択肢として、a) 큼니다, b) 맵습니다, c) 그렇습니다, d) 반갑습니다の場合、正答は큼니다であるが、文脈の支持があれば、맵습니다も成立する。また、ある種の表現として、너무 그렇습니다も成立しうる。文脈でこのような解釈もあり得るだろうとして、問題文を無色透明な文にすることは、逆に、そのような文脈や言外の意味を完全に排除した項目文が適切であるのかどうかという自然さの問題が生じる。加えて、錯乱肢として、正答以外には全く成立し得ない3つの錯乱肢のみ配列された項目に測定力があるのかどうかという問題が生じる。即ち、難易度として実質選択肢数が1になるような項目は寧ろ測定力がないということになるのである。これは2.2.の実質選択肢数の箇所と言及したところである。

加えて、被験者の良識ということについても言及しなければならない。問題項目については、作成者の責任において、可能な限り測定したいターゲットを導くように精査して作成しなければならないが、後述の表6で示されるように、正答の큼니다を85%の被験者が選択している。即ち、作成者が先回りして予測するようには被験者は複雑な文脈予想や想像は行わず、与えられた項目内の情報で解答をするものなのである。<sup>(14)</sup>

以上のような概念で選定を行い、語彙抽出の過程で妥当性を確保し、合計96語の語彙を設定した。分析の過程で、各下位カテゴリと全体の

信頼性を出し、次いで項目応答理論のプログラムを用いて、項目通過率、実質選択肢数を出し、正答と錯乱肢の関係を考慮して、問題数を各分野12語まで絞り、48語の語彙能力を測定するテストを作成する。

#### 4. 信頼性と妥当性の確保のための方略<sup>(15)</sup>

##### 4.1. 問題文自体の語彙レベル調整

語彙能力テストの問題として使用する語彙は前節で述べたように難易度を調整した。しかし、これらの語彙以外の設問文の中で使用される語彙のレベルが統制されていなくては、ターゲットとして設定した語彙の解答そのものが困難になってしまう。そのため、韓国語能力試験の配当級でターゲットの語彙と同じ級か、あるいは、それ以下の級から、設問文に使用する語彙を選択した。従って、解答の語彙よりも高いレベルの語彙が設問文に含まれることはない。こうして、提示される問題文が、ターゲットの語彙とほぼ同一のレベルになるように調整した。

##### 4.2. 四択の設問の語彙レベル調整

正答1つと錯乱肢3つの四肢選択の4つの語彙は、問題文と同様の手順で、同一のレベルになるよう調整した。また問題文に用いられる文法形式は、「主語—(目的語)—述語」の叙述形式の文とし、連体修飾や複雑な文末形式を避けて、使用する話体は합全体を主とした。特に、解答項目である動詞と形容詞の用言の下位カテゴリについては設問文の中では、합니다体に統一してある。これは、語彙知識を問う設問であるため、活用知識が要求されるような負荷を排除することが目的であり、합니다体であれば、パッチムのない用言とㅁパッチムの用言はㅁ니다で、それ以外の用言は全てㅁ니다で統一でき、活用知識の負荷が해요体よりも軽い<sup>(16)</sup>ためである。

##### 4.3. 四択の品詞と語種の統一

4肢選択で配列される4つの選択肢の語種が異なってしまうと、「固有語」「漢字語」の能力を問う妥当性が確保できない。選択肢には固有

語は固有語同士, 漢字語は漢字語同士を配列した。品詞についても, 形容詞は形容詞同士, 名詞は名詞同士, 動詞は動詞同士を配列した。即ち, 固有語形容詞, 漢字語形容詞, 固有語名詞, 漢字語名詞, のように選択肢の中の語種と品詞は一種類になるように統制した。

#### 4.4. パッチムによる語彙の予測の排除

韓国語のテスト作成の際に, 助詞の形態が解答のヒントになってしまうことがある。「오늘은 일요일이지만 교실에 ( )이 있습니다」という設問に対して, 「가게」「코」「사람」「시간」の4つが選択肢にあった場合, 助詞の「이」がヒントになり, パッチムのある単語が正解であるということが導き出されてしまい, 実質選択肢が「사람」「시간」の2つになってしまう。この際の正答率 ( $p_i$ ) は0.500であり, 4肢選択として機能しなくなる。このようなパッチムのない語彙の選択については語彙の知識で排除したことにならず, 語彙能力の測定にならない。これらの単語と助詞の関係は母音終わりの単語につく助詞の場合はパッチムなしの単語, 子音終わりの単語につく助詞の場合はパッチムありの単語が全ての選択肢に並ぶように, 上記のような設問文の場合, 「밤」「길」「사람」「시간」のように項目を作成した。

#### 4.5. 四択の配置を a, b, c, d に均一化

全ての問題は四肢選択の客観式テストになっており, a, b, c, d の4つの選択肢のうち, 1つが正答で3つが錯乱肢で, 複数回答はない。4択のランダム確率は25%であるが, このランダム確率を保証するため, a, b, c, d の4つの選択肢に含まれる正答が, 各39個ずつ, 均等に a, b, c, d に分散するようにしてある。これらの156問の順番を任意に混ぜて配置した。<sup>(17)</sup>

#### 4.6. ディストラクターの付加

本調査が目的とする語彙能力を測定するための語彙問題は前節までに述べたように96問である。調査研究では, 被験者に1つの特性に集中

させすぎて、それらの項目に対する思考力が強まってしまうと、通常の被験者の能力を測定できないという問題が発生する。それを補うために取られる一般的な方法として、他の項目を問題に滑り込ませて、被験者のモニター力が語彙項目のみに集中しないように、語彙問題96問以外に、加えて、文法問題36問、複文問題24問の計60問をディストラクターとして挿入してある。これらをランダムに混ぜて配置した。その結果、全体の質問紙は156問の問題構成となっている。

## 5. 調 査 方 法

調査は、福岡県にある4つの大学と山口県にある1つの大学、合わせて5つの大学で行った。これらの5つの大学で専攻あるいは副専攻で集中的に韓国語を学んでいる日本語母語話者の学習者61名(男3名、女58名)を対象に調査を行った。調査実施日の年齢は、平均で20歳7ヶ月、標準偏差は13歳と8ヶ月であった。大学の学部課程の2年生と3年生を中心に調査を実施したが、学習暦の平均は、2年と3ヶ月であり、学習歴の2年以下を下位群(25名:男1名、女24名)、2年以上を上位群(31名:男2名、女29名)と設定した。<sup>(18)</sup> 留学月が10ヶ月以上、12ヶ月未満の者が下位群の中に1名、上位群の中に4名いた。試験時間は90分であり、試験監督をつけ、辞書の使用を禁止し、2013年6月~7月に調査を実施した。<sup>(19)</sup>

## 6. 調 査 結 果

### 6.1. 全体の得点分布

全体の得点の平均は58.700点(標準偏差18.931)であった。得点の分布は図4のヒストグラムに示した通りである。

テスト項目が被験者の一貫した特徴を測定できているかどうか語彙問題の96問をクロンバックの $\alpha$ 信頼性係数(内部一貫法)を出すことにより、検証した。<sup>(20)</sup> 信頼性係数は、0.000から1.000の間で推移し、1.000に近いほど良好な指標であったことを示す。700を越えれば信頼性があったと解釈される。その結果、語彙問題96問のクロンバックの $\alpha$ 信頼

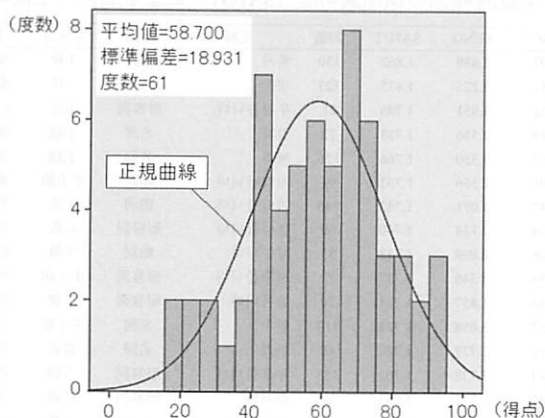


図4 語彙能力テストの得点分布 (ヒストグラム)

性係数は、 $\alpha=.962$  ( $N=96$ ) となり、極めて高い信頼性を示した。形容詞は  $\alpha=.887$  ( $N=32$ )、動詞は  $\alpha=.868$ 、名詞は  $\alpha=.906$  ( $N=32$ ) となり、下位カテゴリごとに見ても、非常に高い信頼性係数を示した。

## 6.2. 項目応答理論による通過率と実質選択肢数

本節では、項目応答理論に基づいて、各問題項目を分析し、その結果を前節までの分析と照合しつつ、削除する問題項目の候補を絞って行く。96語の語彙は、それぞれ下位カテゴリによって分類されている。各カテゴリを標準項目適切度 (SATOT) の順で並べ、その SATOT の得点の上位から、各カテゴリの項目を選抜し、各カテゴリが均等に半数になるように語彙を48語抽出した。<sup>(21), (22)</sup> その結果を、以下、表2-1と表2-2に展開した。

SATOT による48語への絞り込みの後、再度、クロンバックの  $\alpha$  信頼度係数の検定を行った。その結果、全体では  $\alpha=.945$  ( $N=48$ ) であり、ここでも極めて高い信頼度を示していた。また、カテゴリごとに見ても、形容詞は  $\alpha=.860$  ( $N=16$ )、動詞は  $\alpha=.834$  ( $N=16$ )、名詞は  $\alpha=.875$  ( $N=16$ ) となり、やはりどれも高い信頼度を示した。平均値は29.740、標準偏差



表2-1 全設問96語の標準適切度(SATOT)による順位(上位48問)

DIFF	DISC	AENO	SATOT	問題	正解	品詞	レベル	語種	順位
0.656	0.697	2.639	1.862	130	한자	名詞	中級	漢字語	1
0.557	0.557	3.225	1.835	127	채식	名詞	上級	漢字語	2
0.820	0.821	1.951	1.786	21	무겁습니다	形容詞	中級	固有語	3
0.689	0.619	2.556	1.783	72	결과	名詞	中級	漢字語	
0.492	0.653	3.350	1.766	126	체력	名詞	上級	漢字語	4
0.689	0.505	2.556	1.752	94	기억납니다	動詞	中上級	漢字語	5
0.557	0.547	3.071	1.742	146	기억합니다	動詞	上級	漢字語	
0.770	0.694	2.134	1.740	69	감사합니다	形容詞	初級	漢字語	6
0.607	0.628	2.893	1.738	83	낯습니다	動詞	中級	固有語	7
0.492	0.656	3.346	1.737	73	서투릅니다	形容詞	中上級	固有語	8
0.836	0.844	1.857	1.724	20	습습니다	形容詞	中級	固有語	9
0.410	0.652	3.658	1.722	113	만무	名詞	中上級	固有語	10
0.852	0.852	1.777	1.720	48	가게	名詞	初級	固有語	11
0.344	0.643	3.738	1.702	155	우울합니다	形容詞	上級	漢字語	12
0.852	0.740	1.777	1.695	6	듭니다	形容詞	初級	固有語	13
0.361	0.641	3.825	1.692	93	개구쟁이	名詞	上級	固有語	14
0.557	0.574	3.178	1.689	117	버립니다	動詞	中級	固有語	15
0.525	0.505	3.232	1.683	85	맞습니다	動詞	中上級	固有語	16
0.672	0.576	2.571	1.678	75	부끄럽습니다	形容詞	中上級	固有語	17
0.770	0.770	2.096	1.676	134	사진	名詞	初級	漢字語	18
0.361	0.632	3.814	1.669	124	소감	名詞	上級	漢字語	
0.902	0.749	1.523	1.665	31	잡니다	動詞	固有語		19
0.393	0.632	3.525	1.665	140	말합니다	動詞	中上級	漢字語	20
0.738	0.738	2.355	1.657	110	연락합니다	動詞	中級	漢字語	21
0.705	0.488	2.483	1.654	19	시경	名詞	中級	漢字語	22
0.738	0.738	2.195	1.647	47	조심합니다	動詞	中級	漢字語	23
0.672	0.599	2.529	1.646	26	중요합니다	形容詞	中級	漢字語	24
0.738	0.648	2.238	1.644	132	편리합니다	形容詞	中級	漢字語	25
0.820	0.538	1.943	1.640	62	쓰레기	名詞	中級	固有語	26
0.836	0.736	1.824	1.639	17	유명합니다	形容詞	初級	漢字語	27
0.656	0.474	2.717	1.638	41	떠납니다	動詞	中級	固有語	
0.689	0.532	2.507	1.637	70	주소	名詞	中級	漢字語	
0.820	0.652	1.874	1.635	59	거짓말	名詞	中級	固有語	28
0.328	0.565	3.889	1.620	106	책임집니다	動詞	上級	漢字語	29
0.721	0.359	2.407	1.600	116	포장지	名詞	中上級	漢字語	30
0.770	0.586	2.109	1.597	64	낚시	名詞	中級	固有語	
0.344	0.587	3.731	1.596	86	묵습니다	動詞	中上級	固有語	31
0.541	0.571	3.044	1.575	135	한가합니다	形容詞	中上級	漢字語	32
0.541	0.550	3.058	1.572	5	내복	名詞	中上級	漢字語	33
0.852	0.620	1.760	1.552	53	식사합니다	動詞	初級	漢字語	34
0.443	0.592	3.410	1.544	99	유쾌합니다	形容詞	中上級	漢字語	35
0.672	0.539	2.469	1.534	92	유치원	名詞	中上級	漢字語	
0.869	0.869	1.660	1.528	67	회사	名詞	初級	漢字語	36
0.607	0.525	2.680	1.527	24	하얗습니다	形容詞	初級	固有語	
0.803	0.493	2.030	1.521	114	기다립니다	動詞	初級	固有語	37
0.885	0.697	1.530	1.514	33	보냅니다	動詞	初級	固有語	
0.869	0.640	1.660	1.514	36	시각합니다	動詞	初級	漢字語	38
0.393	0.474	3.687	1.505	78	칼칼합니다	形容詞	中上級	固有語	

表2-2 全設問96語の標準適切度 (SATOT) による順位 (下位48問)

DIFF	DISC	AENO	SATOT	問題	正解	品詞	レベル	語種	順位
0.410	0.372	3.676	1.504	151	가끔니다	動詞	上級	固有語	39
0.803	0.645	1.874	1.499	60	자리	名詞	中級	固有語	
0.787	0.651	1.923	1.498	30	핀요합니다	形容詞	中級	漢字語	
0.918	0.597	1.448	1.498	40	전화합니다	動詞	初級	漢字語	
0.344	0.444	3.831	1.493	97	따집니다	動詞	上級	固有語	40
0.426	0.557	3.470	1.489	129	전병	名詞	上級	漢字語	
0.902	0.902	1.469	1.483	55	병원	名詞	初級	漢字語	
0.377	0.523	3.556	1.481	88	권합니다	動詞	中上級	漢字語	
0.361	0.366	3.834	1.476	84	항당합니다	形容詞	上級	漢字語	41
0.459	0.290	3.437	1.458	13	섞습니다	動詞	中上級	固有語	
0.311	0.430	3.887	1.452	102	단정합니다	動詞	上級	漢字語	42
0.262	0.496	3.900	1.447	101	뜯습니다	動詞	上級	固有語	
0.934	0.649	1.333	1.433	34	만남니다	動詞	初級	固有語	
0.475	0.347	3.274	1.431	104	수선합니다	動詞	上級	漢字語	
0.836	0.836	1.692	1.418	54	뒤	名詞	初級	固有語	43
0.869	0.808	1.616	1.416	11	따뜻합니다	形容詞	初級	固有語	
0.770	0.568	2.033	1.406	43	씻습니다	動詞	中級	固有語	
0.803	0.803	1.791	1.397	58	영어	名詞	初級	漢字語	
0.230	0.481	3.891	1.396	118	공손합니다	形容詞	上級	漢字語	
0.770	0.316	2.054	1.395	12	그만듭니다	動詞	中上級	固有語	
0.361	0.450	3.701	1.395	153	윤보	名詞	上級	固有語	45
0.787	0.574	1.982	1.394	15	줍습니다	形容詞	初級	固有語	
0.344	0.430	3.758	1.387	111	흙	名詞	中上級	固有語	46
0.525	0.208	3.145	1.382	156	합격합니다	動詞	中級	漢字語	
0.820	0.587	1.769	1.359	28	피곤합니다	形容詞	中級	漢字語	
0.525	0.429	2.841	1.350	92	도망갑니다	動詞	中上級	漢字語	
0.361	0.301	3.661	1.339	1	느긋합니다	形容詞	上級	固有語	47
0.328	0.403	3.699	1.338	79	평범합니다	形容詞	中上級	漢字語	
0.246	0.296	3.919	1.335	63	게으릅니다	形容詞	中上級	固有語	
0.918	0.918	1.403	1.334	50	사람	名詞	初級	固有語	
0.377	0.262	3.618	1.291	122	마무리	名詞	上級	固有語	
0.869	0.570	1.640	1.289	65	죄송합니다	形容詞	初級	漢字語	
0.262	0.422	3.825	1.282	107	바늘	名詞	中上級	固有語	
0.328	0.346	3.726	1.282	120	맞벌이	名詞	上級	固有語	
0.787	0.475	1.931	1.275	61	목표	名詞	中上級	漢字語	
0.951	0.951	1.255	1.272	51	아침	名詞	初級	固有語	
0.393	0.474	3.314	1.255	149	귀중합니다	形容詞	中上級	漢字語	
0.951	0.951	1.255	1.236	45	도착합니다	動詞	中級	漢字語	
0.295	0.265	3.681	1.230	80	질습니다	形容詞	上級	固有語	48
0.902	0.513	1.502	1.229	52	미안합니다	形容詞	初級	漢字語	
0.951	0.465	1.255	1.217	38	공부합니다	動詞	初級	漢字語	
0.426	0.428	3.047	1.211	37	명망합니다	形容詞	上級	漢字語	
0.344	0.338	3.588	1.208	109	안개	名詞	中上級	固有語	
0.721	0.395	2.007	1.193	23	깊습니다	形容詞	中級	固有語	
0.246	0.274	3.632	1.146	98	따집니다	動詞	上級	固有語	
0.115	0.318	3.559	1.135	82	넉넉합니다	形容詞	上級	固有語	
0.934	0.591	1.322	1.088	8	가깝습니다	形容詞	初級	固有語	
0.377	0.249	3.147	1.021	7	지겹습니다	形容詞	上級	固有語	

は11.512であった。

### 6.3. 下位群と上位群の差の検定

#### 6.3.1. カテゴリ別に見た下位群と上位群の差

この節では、学習歴によって分類した上位群と下位群の差による弁別ができていくかどうか、下位カテゴリの品詞別と語種別の2つの角度から、下位群と上位群の2グループの差を独立したサンプルの  $t$  検定で検証した。分析には、PASW (SPSS) Statistics Version 18.0を使用した (Arbuckle<sup>(23)</sup> 2009)。その結果、以下、表3のようになった。

表3 学習期間で分けた上位群と下位群の平均 ( $M$ ) と標準偏差 ( $SD$ )

		配点	下位群 ( $n=28$ )	上位群 ( $n=33$ )	$t$ 値
品詞別	形容詞	$M$	7.750	11.485	$t(59)=4.19, p<.001$ ***
		$SD$	3.284	3.615	
	動詞	$M$	7.607	12.030	$t(59)=4.86, p<.001$ ***
		$SD$	2.793	4.066	
	名詞	$M$	7.571	12.000	$t(59)=4.43, p<.001$ ***
		$SD$	3.766	3.500	
語種別	固有語	$M$	11.250	16.727	$t(59)=4.55, p<.001$ ***
		$SD$	4.368	4.945	
	漢字語	$M$	11.571	18.121	$t(59)=5.05, p<.001$ ***
		$SD$	4.772	5.266	
語彙計	$M$	22.929	35.515	$t(59)=5.05, p<.001$ ***	
	$SD$	8.819	10.387		

注： $p<.05^*$ ,  $p<.01^{**}$ ,  $p<.001^{***}$ ,  $ns$  not significant

形容詞下位群 ( $M=7.750, SD=3.284$ ) と形容詞上位群 ( $M=11.485, SD=3.615$ ) に有意差が見られ [ $t(59)=4.19, p<.001$ ], 動詞下位群 ( $M=7.607, SD=2.793$ ) と動詞上位群 ( $M=12.030, SD=4.066$ ) にも有意差が見られ [ $t(59)=4.86, p<.001$ ], 名詞下位群 ( $M=7.571, SD=3.766$ ) と名詞上位群 ( $M=12.000, SD=3.500$ ) にも有意差が見られた [ $t(59)=4.43, p<.001$ ]。

固有語下位群 ( $M=11.250, SD=4.368$ ) と固有語上位群 ( $M=16.727, SD=4.945$ ) に有意差が見られ [ $t(59)=4.55, p<.001$ ], 漢字語下位群 ( $M=11.571, SD=4.772$ ) と漢字語上位群 ( $M=18.121, SD=5.266$ ) にも有

意差が見られた [ $t(59)=5.05, p<.001$ ]。

品詞別に見ても、語種別に見ても、下位群より上位群の方が平均点が高く、全て0.1%水準で有意であった。語彙全体でも下位群 ( $M=22.929, SD=8.819$ ) と上位群 ( $M=35.515, SD=10.387$ ) で、上位群と下位群の間で0.1%水準の有意差が見られた [ $t(59)=5.05, p<.001$ ]。これにより、学習歴によって分類した上位群と下位群の差による弁別ができていたことが分かった。

#### 6.4. 下位カテゴリによる各レベル間の差の検証

##### 6.4.1. レベルごとに見た品詞の得点比較

下位群と上位群をレベル別に分けて、品詞のカテゴリ間に有意な違いを比較した。前述のように形容詞、動詞、名詞の品詞ごとに難易度が統制されている。したがって、3つの品詞を直接に比較することが可能であると仮定した。そこで、反復のある一元配置の分散分析を上位群と下位群とに別々に行った。その結果、下位群も [ $F(2,27)=.073, p=.930, ns$ ]、上位群も [ $F(2,32)=1.053, p=.355, ns$ ] 共に有意な主効果が見られなかった。これは、テストの語彙選択の段階で品詞の難易度を統制したことを反映した結果である。これにより、品詞別に学習者の能力を測定する妥当性が確認された。

表4 学習期間で分けた上位群と下位群の品詞別得点の平均 ( $M$ ) と標準偏差 ( $SD$ )

	配点		形容詞	動詞	名詞	有意確率
下位群 ( $n=28$ )	16	$M$	7.750	7.607	7.571	$ns$
		$SD$	3.284	2.793	3.766	
上位群 ( $n=33$ )	16	$M$	11.485	12.030	12.000	$ns$
		$SD$	3.615	4.066	3.500	

注:  $p<.05^*$ ,  $p<.01^{**}$ ,  $p<.001^{***}$ ,  $ns$  not significant

##### 6.4.2. レベルごとに見た語種の得点比較

固有語と漢字語の語種についても難易度を統制したので、反復のある一元配置の分散分析を上位群と下位群とに別々に行った。結果を表5に展開した。その結果、まず、下位群においては、語種間で主効果に有意

差がみられなかった [ $F(2,27)=0.494, p=.488, ns$ ]。一方, 上位群においては, 主効果が有意であった [ $F(2,32)=17.116, p<.001$ ]。漢字語 ( $M=18.12, SD=5.27$ ) の方が固有語 ( $M=16.73, SD=4.95$ ) よりも有意に得点が高いという結果であった。日本語母語話者は上位群になると漢字語の識別力が高くなるという傾向を示している。

日本語母語話者の漢字語の識別は固有語に比べて有利に働いており, 上位群でこの傾向が見られたことは, 日本語母語の漢字語彙力を利用した特殊な判断力が働いているのかもしれない。しかしながら, 下位群においては固有語と漢字語の間で有意差が見られなかった。

このことは, 第一言語の漢字語の知識は, 目標言語のある一定の能力に達成しないうちは, 必ずしも第二言語で有利に運用できるわけではないということを示唆している。この検証についてはより詳細な実験的な研究が要される。本調査においては, 下位群で固有語と漢字語の間に差が生じず, 語種のカテゴリの弁別力は下位群では有効に機能し, 上位群ではやや弁別力が落ちることが観察された。

表5 学習期間で分けた上位群と下位群の語種別得点の平均 ( $M$ ) と標準偏差 ( $SD$ )

	配点		固有語	漢字語	有意確率
下位群 ( $n=28$ )	24	$M$	11.250	11.571	$ns$
		$SD$	4.368	4.772	
上位群 ( $n=33$ )	24	$M$	16.727	18.121	***
		$SD$	4.945	5.266	

注:  $p < .05^*$ ,  $p < .01^{**}$ ,  $p < .001^{***}$ ,  $ns$  not significant

## 7. 実質選択肢数の検証

テストの測定精度を上げるためには, 正解項目ばかりではなく, 錯乱肢の選択も重要である。そこで, ここでは正解以外の3つの錯乱肢の選択率を示し, 標準項目適切度 (SATOT) で絞り込んだ48問を中心に検討していく。正解率 (即ち, 項目難易度 DIFF) に対する錯乱肢の選択者比率を算出したものが, 表6である。

表6 標準項目適切度で抽出された48語の錯乱肢の特性および選択者比率

問題番号	品詞	レベル	語種	SATOT 順位	正解	錯乱肢 1	錯乱肢 2	錯乱肢 3				
130	名詞	中級	漢字語	1	0.656	한자	0.066	인기	0.115	선수	0.131	세계
127	名詞	上級	漢字語	2	0.557	채식	0.131	지진	0.164	용	0.148	왕
21	形容詞	中級	固有語	3	0.820	무겁습니다	0.066	눅습니다	0.066	갈습니다	0.148	습습니다
126	名詞	上級	漢字語	4	0.492	체격	0.131	초대장	0.115	소감	0.246	은천
94	動詞	中上級	漢字語	5	0.689	기억납니다	0.082	인정받습니다	0.115	취장합니다	0.098	마련합니다
69	形容詞	初級	漢字語	6	0.770	감사합니다	0.033	조용합니다	0.066	유명합니다	0.131	채워있습니다
83	動詞	中級	固有語	7	0.607	눅습니다	0.115	건넵니다	0.098	습습니다	0.148	벗습니다
73	形容詞	中上級	固有語	8	0.492	서무됩니다	0.246	가립니다	0.180	느끼합니다	0.082	그립니다
20	形容詞	中級	固有語	9	0.836	습습니다	0.033	헛갈습니다	0.066	맞습니다	0.066	이렇습니다
113	名詞	中上級	固有語	10	0.410	말무	0.197	그네	0.246	밤새	0.131	무늬
48	名詞	初級	固有語	11	0.852	가계	0.066	노래	0.033	나이	0.490	값
155	形容詞	上級	漢字語	12	0.344	우울합니다	0.180	위대합니다	0.295	공손합니다	0.148	단정합니다
6	形容詞	初級	固有語	13	0.852	답니다	0.033	반갑습니다	0.066	웁습니다	0.490	그립니다
93	名詞	上級	固有語	14	0.361	개구쟁이	0.180	고구마	0.246	구이	0.197	꼬리
117	動詞	中級	固有語	15	0.557	버립니다	0.197	건습니다	0.098	습습니다	0.148	죽습니다
85	動詞	中上級	固有語	16	0.525	맞습니다	0.115	무너집니다	0.023	거둡니다	0.115	토합니다
75	形容詞	中上級	固有語	17	0.672	부끄럽습니다	0.066	검습니다	0.066	깊습니다	0.197	그립니다
134	名詞	初級	漢字語	18	0.770	사진	0.033	성함	0.066	주발	0.115	반음
31	動詞	初級	固有語	19	0.902	잡니다	0.049	모입니다	0.033	건습니다	0.160	값니다
140	動詞	中上級	漢字語	20	0.393	망합니다	0.131	권합니다	0.295	택합니다	0.131	인합니다
110	動詞	中級	漢字語	21	0.738	연락합니다	0.066	도착합니다	0.115	연습합니다	0.082	결혼합니다
19	名詞	中級	漢字語	22	0.705	서점	0.131	경제	0.115	관심	0.490	경치
47	動詞	中級	漢字語	23	0.738	조심합니다	0.016	연습합니다	0.098	출발합니다	0.131	준비합니다
26	形容詞	中級	漢字語	24	0.672	중요합니다	0.148	조용합니다	0.033	유명합니다	0.131	건강합니다
132	形容詞	中級	漢字語	25	0.738	편리합니다	0.082	건강합니다	0.098	시원합니다	0.049	미안합니다
62	名詞	中級	固有語	26	0.820	쓰레기	0.049	소리	0.082	키	0.049	이
17	形容詞	初級	漢字語	27	0.836	유명합니다	0.082	조용합니다	0.016	시원합니다	0.066	미안합니다
59	名詞	中級	固有語	28	0.820	거짓말	0.033	얼굴	0.082	거울	0.049	마음
106	動詞	上級	漢字語	29	0.328	억임칩니다	0.246	독해합니다	0.164	마련합니다	0.262	청당합니다
116	名詞	中上級	漢字語	30	0.721	포장지	0.049	피부	0.131	유적지	0.098	종교
86	動詞	中上級	固有語	31	0.344	뽀습니다	0.115	토합니다	0.246	구만듭니다	0.279	헤뽀니다
135	形容詞	中上級	漢字語	32	0.541	한가합니다	0.066	가능합니다	0.148	담백합니다	0.197	순직합니다
5	名詞	中上級	漢字語	33	0.541	내복	0.115	진풍	0.180	자음	0.098	우견
53	動詞	初級	漢字語	34	0.852	식사합니다	0.033	도착합니다	0.082	노력합니다	0.033	이해합니다
99	形容詞	中上級	漢字語	35	0.443	유쾌합니다	0.115	담백합니다	0.262	순직합니다	0.131	얼적합니다
67	名詞	初級	漢字語	36	0.869	회사	0.033	오후	0.016	문제	0.082	천화
114	動詞	初級	固有語	37	0.803	기다립니다	0.066	잡니다	0.049	잡니다	0.082	끝냅니다
36	動詞	初級	漢字語	38	0.869	시작합니다	0.016	노력합니다	0.082	공부합니다	0.033	식사합니다
151	動詞	上級	固有語	39	0.410	가립니다	0.197	넘칩니다	0.164	억외칩니다	0.197	베었습니다
97	動詞	上級	固有語	40	0.344	따칩니다	0.230	구릅니다	0.180	살립니다	0.213	며끼칩니다
84	形容詞	上級	漢字語	41	0.361	황당합니다	0.213	명령합니다	0.180	위대합니다	0.230	적정합니다
102	動詞	上級	漢字語	42	0.311	단정합니다	0.197	척임칩니다	0.246	수선합니다	0.213	기억합니다
54	名詞	初級	固有語	43	0.836	뒤	0.098	개	0.049	베	0.000	비
11	形容詞	初級	固有語	44	0.869	따뜻합니다	0.016	잡니다	0.066	비쌉니다	0.033	작습니다
153	名詞	上級	固有語	45	0.361	윤보	0.131	상추	0.213	뿌리	0.246	근씨
111	名詞	中上級	固有語	46	0.344	흙	0.246	마당	0.213	가름	0.148	땀
1	形容詞	上級	固有語	47	0.361	느긋합니다	0.164	담끔합니다	0.262	깔끔합니다	0.148	떡떡합니다
80	形容詞	上級	固有語	48	0.295	질습니다	0.131	뻥합니다	0.180	단름합니다	0.361	괴롭습니다

まず、最適項目困難度は、0.600～0.625である(Nikto1983; 大友賢二1989)。この値から大きく離れた項目困難度は、不適切な項目と判断される。実際に、標準項目適切度で抽出された48語の項目困難度の全体の平均は0.610であり、極めて最適項目困難度に近い値を示している。標準項目適切度で抽出された48語(表6のSATOTを参照)のうち、項目困難度が0.900を超えているものは、問題番号31(動詞・固有語・初級)の잡니다(0.902)のみであり、0.300を切っているのは問題番号80(形容詞・上級・固有語)의 짝입니다(0.295)のみである。初級レベルの項目困難度の平均は0.840、中級レベルは0.724、中上級レベルは0.510、上級レベルは0.377で、表1でTOPIKと教育基幹語彙によってレベル別の分類枠を作成したが、そのレベル分けが項目困難度に良く反映されていた。

3つの錯乱肢の選択率も妥当な範囲に収まっており、3つの錯乱肢の中で0があると、実質的にその錯乱肢が機能していないこととなり、望ましくないが、そのようになっているのは問題番号54(名詞・固有語・初級)의 뒤의 錯乱肢 3의 叫(0.000)のみであった。全体として、正解と錯乱肢の関係は良く機能していた。

## 8. 総括

本稿は項目応答理論のプログラムを利用し、標準項目適切度(SATOT)の順位を基準に48語を抽出し、信頼性の検定と下位カテゴリ項目の統計的分析を行った。日本語能力試験(JLPT)やTOEIC, TOEFLでは、得点分析が詳細に行われており、測定力が保障された統計的信頼性の高いテストが用意されている。そのため、日本語の習得研究の際にはこれらを利用して被験者のレベル分けを行うことが可能である。しかし、韓国語の習得研究の分野においては、研究用に用いられる、このような測定テストが見られなかった。本研究が作成した言語能力測定テストは、宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘(2012)と同様に、下位カテゴリを設けてテスト構成を行い、検証したことが画期的である。単なるレベル分けの用途のみならず、習得研究の分析の段階で、品詞による角度からの検

証、語種による角度からの検証が可能であり、より詳細な分析項目を立てることができるためである。最終的な48問の語彙テストは付録1 (Appendix1) に掲載し、一覧表は付録2 (Appendix2) に掲載した。本研究によって作成された韓国語語彙能力テストはこの場を借りて公開する。本測定テストを多くの習得研究の研究者に、被験者の標準化のために使用して頂けることを願っている。そして、様々な研究から、この語彙能力テストの測定力と信頼性を検証するような追報告が多く挙がってくることを望んでいる。

【附記1】

本研究は、文部科学省科学研究費助成事業挑戦的萌芽研究(C) (研究課題番号：24652123)「日本語母語話者の韓国語習得における文法知識と語彙知識が読解に与える影響について」の成果の一部を報告したものである。

【附記2】

本論文の作成に当たって、調査協力をしてくれた多くの大学関係者の方々に重ねてお礼申し上げたい。また、匿名の査読者による細部に亘る精読と指摘は本稿の改善に役立った。ここに記してお礼申し上げたい。

註

- (1) 尾崎茂(2008)では、言語テストについて、古典テスト理論としての妥当性や信頼性を議論した上で、更にその「実用性」についての議論を展開している。妥当性や信頼性の高いテストであっても、「時間」「予算」「設備」「人員」の4つの要素が影響し、それらの諸条件によって実施が困難であれば、そのテストは無用のものであるとして、実用性の観点の重要性を主張している。
- (2) 項目(item)とは、テスト理論(大友1996, 中村2002)で言うところの1つ1つの設問のことである。10項目であれば、10問の問題数のことを示している。
- (3) 学習者のレベル測定の際に、勿論、多種多様な紙媒体のテストを実施した上に、聴解能力測定テスト、口頭によるインタビューテストまで行えば、それは必要十分に能力測定ができるのは確かである。しかしながら、信頼性係数の算出や、回帰分析を行うなどの検定のためには、約50名以上のデータが必要となる。2グループのテスト得点の平均値の比較をするためのt検定を行うためにも、正規分布するとされる20名以上の数のデータを2群、即ち40名分



のサンプルを収集しなければ、統計的な条件を確保できない。そのため、定量的な研究を行う際に、主となる調査以外に課す学習者能力を測定するテストの簡易性は重要な要素である。また、多種多様なテストを与えたとしても、それらの各テストの信頼性と測定力が確保されていなければ、その測定は無意味であると言える。

- (4) 信頼度係数とは、そのテストで得られる結果が、調査対象となる被験者の特性を揺れが無く測定できているかを示す係数ある。詳しくは注20にも記述してあるが、例えば、あるかけ算のテストを偏差値50のX高校で実施したところ平均点は70点であった、しかし、同じ偏差値50のY高校で実施したところ平均点が20点となった、この場合、このテストの信頼性は著しく低いものだと言える。また、偏差値もその時々を受験者集団の中から相対的に導き出される値であるため、受験者の能力が同じであっても、あるテストの時は偏差値が60、あるテストの時は55となったりする。古典的テスト理論ではこのように相対的な結果の記述しかできない。
- (5) 一次元性を前提とするのは、各項目の四分相関係数 (tetra-chronic correlation coefficient) を因子分析し、その第一因子負荷量を検討するため、テスト項目は唯一の能力を測定するものでなければならない(大友賢二1989)からである。四分相関係数は $2 \times 2$ のクロス集計されたデータに適用され、データは0と1に置換され、 $-1 < \phi < 1$ の範囲で相関を示す。
- (6) 項目応答理論ではロジット得点 (logit score) を用いる。受験者能力と項目困難度は $-3.00 \sim 3.00$ の間に尺度化され、受験者能力と項目困難度のパラメータの差がLogitである。Logitは確率を表す $p$  (probability) に対して、 $(\text{logit} = \ln(p_i/(1-p_i)))$  で定義される量であり、絶対値として置き換えられる。古典的テスト理論では不可能であった問題項目の得点価値の等化(問題Xと問題Yの2項目の測定力が等しいこと)が可能になり、異なった受験者集団や異なったテストの組み合わせの影響を受けない、不変的な能力値が算出できる。即ち、いつ、誰が、どんなテスト方法によってその問題項目を受験しても、その問題項目の得点の価値は変わらないということである。
- (7) 得点によるデータが平均値を中心に左右に均等に広がる正規分布をする前提となる数は20からと言われる(磯田・廣森2004:53)。ある項目の難易度や測定力を一般化するためには、20~30のデータ数では一般化が困難である。ラッシュモデルが統計的に妥当な結果になるためには、100以上のデータが無ければ一般化が難しいと言われる(静2007)。
- (8) 総受験者数に対する正解者の割合の上位27% ( $pU$ ) と下位27% ( $pL$ ) を設定し、弁別力を測定する(大友賢二・中村洋一・秋山實2002)。
- (9) 上位と下位のデータのみで見える場合は、 $UL$ 指数 =  $1/N(Nu_j - Nl_j)$  のモデルで測定する。 $Nu_j$ は上位グループのN人中、項目jに正答した被験者数、 $Nl_j$

は下位グループのN人中、項目jに正答した被験者数を表す(大友賢二1988)

- (10) 実際に四肢選択項目を受験すると、例えば  $f([1010]|\theta_j)$  のようにデータが確定し、母数を変数として扱う。この時の式の値は確率ではなく、「尤度」という。この時の変数の値を調整して最も尤度の値が大きくなることを最尤推定法といい、最尤推定値は  $\hat{\theta}$  をつけて表現する。即ち、母数の変数である項目困難度が0.800の場合、 $R = 2^I$ ,  $I = -\sum_{j=1}^n p_j \log_2 p_j$  の計算式に当てはめると、実質選択肢数は  $R = 1.046$  となり、これが最尤推定値となる(豊田秀樹2002: 34)。
- (11) 日本語の漢語(Sinoxenic vocabulary)(e.g.「哲学」「経済」「機械」など)は、中国から直接移入したものであるのか、或いは、日本で造語されたものであるのかという由来は関係しない。韓国語では漢語という名称よりも漢字語(한자어, Sino-Korean vocabulary)という名称が用いられるため(김광해 1989), 本稿では漢字語という呼称を使用する。
- (12) ここで言う外来語の語彙とは主に西欧語から、直接的、或は、間接的に借用した語彙であり、名詞では과일, 택시, 포크, 動詞では알바이트하다, 드라이브하다などがある。形容詞は、日本語では「スマートな」「ハンサムな」「クリーンな」など、初級でも外来語の形容詞語彙が数多く存在し、項目を立てることが可能であるが、韓国語の場合は、初級は勿論のこと、中上級レベルでも外来語の形容詞が、基準とした TOPIK と教育基幹語彙の双方の中に見られなかった。
- (13) 測定テストの基礎的な知識として、下位カテゴリ内の項目数が一致していることが絶対条件であることを言及したい。12から出された平均値と、5から出された平均値は同じ平均3.0点であったとしても全く価値が異なる。本研究での語彙テストは、品詞分類として、形容詞16、動詞16、名詞16の品詞から見た下位カテゴリの構成と、漢字語24と固有語24から見た下位カテゴリの構成になっている。韓国語の動詞と名詞には若干の外来語があるがカテゴリから外来語を外した理由は、本文で述べたように TOPIK と教育基幹語彙のレベル範疇に形容詞の外来語が存在しないため、均等な数のカテゴリとして設定できなかった/しなかったためである。下位カテゴリに何を入れ、何を入れないかはテスト構成上の任意であり、被験者能力の測定テストのための大前提として、測定精度と簡便さを達成させることが本測定テストの目的である。被験者能力の測定のために、あれもこれもと下位カテゴリ数を増やしては、結局、100項目を越えるような大規模テストになるだけである。その際に、測定者側は「これだけの多岐に亘る項目を実施したのだから被験者の能力を測定できるであろう」と考えがちだが、そういった大規模テストの過程で起こる被験者の負担による精度の低下や誤差を考慮しないきらいがある。本文の冒頭で言及した通り、本稿の目指す測定とは、必要最小限度の項目数の得点から被験者の全

体的な韓国語能力を予測的に測定することである。

- (14) 本稿の項目文のうち、文脈や言外の情報によっては予測的にこのような可能性もあるであろう、という意見については、テスト理論の基本から受け入れることはできない。反論は2点ある。1つ目は、被験者の回答分布が図4のヒストグラムに示したように、平均点58.7を中心に正規分布し、最適項目困難度の6.250(Nitko1983)に近接した数値が得られており、通常の回答が得られていると考えられること、2つ目は、表6に示された最終的な錯乱肢の選択率におかしな箇所が見られなかったということ根拠とし、通常の回答が得られていると考える。
- (15) 妥当性とは、その質問紙が“まとも”であるかということである。韓国語の語彙能力テストであるのに文法能力を測定していたり、文化知識を説明させていたりする設問があるのは内容的妥当性(content validity)がない。初級レベルの学習者に韓国語能力試験(TOPIK)の6級の問題のみを提示するのは基準関連妥当性(criterion-referenced validity)がない。語彙問題で統一され、レベルも適切であっても、前半は記述式回答で後半は四肢選択式回答であれば、構成概念妥当性(construct validity)がない。このように妥当性が確保されていない質問紙に統計をかけても数値は得られるが“妥当”な結果にはならない(尾崎茂2008)。
- (16) 합니다体に活用する際に、≡脱落が発生する用言(e.g. 살다, 알다, 만들다など)についてはそれらの語彙は除外した。
- (17) 本調査は、語彙能力テストの設問以外にも他に55問の設問がディストラクターとして設けられ調査されたが、これらのデータについての報告は他の分析とするため、本研究では言及しないことをお断りさせて頂く。
- (18) 学習歴による下位群と上位群の分類には妥当性がないということを冒頭で述べたが、しかし、まず、それを測定するテストを作成するのが本研究の目的である。その結果の妥当性は6.3節と6.4節で証明された。
- (19) 採点はマークシート形式であり、SCAN SNAP(S1500, Fujitsu)で読み取り、マークシート採点処理プログラム「マーくん ver.20」で点数をexcelファイルに展開した。
- (20) テスト問題の信頼性とは、そのテストが被験者のある一定の特徴を測定できているか、即ち、その質問紙が“何度やっても同じような結果を示す”ことを表す指標である。調査を行う度に結果に揺れがあってはならず、対象の一貫した特性を測定するのが精度の高い研究調査の要件である。古典的テスト理論では、信頼性の検定のために、再テスト法( $p=r$ )、平行テスト法( $p=r$ )、折半法( $p=2r/(1+r)$ )などがあるが、スピアマン-ブラウンの公式で全ての分け方について $\rho$ を出し、それを平均して算出する内部一貫法が信頼性検定の主流である。これによって導かれる係数をクロンバックの $\alpha$ 係数と言い、 $\alpha=.07$ を目安に、

それ以上の値であれば一定の信頼性を示したとされる。しかし、信頼性の測定のためには、それ以前に、テスト問題の妥当性が確保されていなければ、信頼性の数字は無意味なものとなる。

- (21) この選抜基準からの例外は SATOT 順位 7 位に当たる 기억하다 (動詞・漢字語・上級) である。SATOT 順位 6 位에 기억나다가 (動詞・漢字語・中上級) あり、意味的、形態的な類似性が高いため、任意で SATOT 順位 7 位の 기억하다の方を除外した。
- (22) この選抜基準からの例外は SATOT 順位 4 位に当たる 결과 (名詞・漢字語・中級) である。本稿の立てた 4.4. の原則に反する問題項目があったため、これを除外した。지난 번 시험(결과)를 가르쳐 주세요. に対して、a)결과, b)경치, c)선배, d)성격となり、성격がパッチムがあり不適切であった。
- (23) サンプルングしたデータが正規分布しているかどうかの等分散性を検証する Levene の検定の結果、有意となり、等分散性が保障されたため、等分散性を仮定しない補正值のない独立したサンプルの  $t$  検定の結果を採用した。

#### 参考文献

##### (1) 日本語文献

- 石田敏子 (1992) 『入門 日本語テスト法』, 東京:大修館書店.
- 岩崎典子 (2002) 「日本語能力簡易試験 (SPOT) の得点と ACTFL 口頭能力測定 (OPI) のレベルの関係について」, 『日本語教育』114, 東京:日本語教育学会.
- 尾崎茂 (2008) 『言語テスト学入門 ―テスト作成の基本理念と研究法―』, 岡山:大学教育出版.
- 大友賢二 (1988) 「英語テストにおける項目選定基準の設定」, 『外国語教育論集』10, 茨城:筑波大学外国語教育センター.
- 大友賢二 (1989) 「「項目反応理論」の研究 ロジスティック・モデルによる項目特性曲線」, 『外国語教育論集』11, 茨城:筑波大学外国語教育センター.
- 大友賢二 (1990) 「「項目反応理論」の研究 項目情報関数とテスト情報関数」, 『外国語教育論集』12, 茨城:筑波大学外国語教育センター.
- 大友賢二 (1991) 「「項目反応理論」の研究 ―PROX 法によるパラメータ推定の問題点―」, 『外国語教育論集』13, 茨城:筑波大学外国語教育センター.
- 大友賢二 (1994) 「「項目反応理論」の研究 ロジット得点と Rasch Model」, 『外国語教育論集』16, 茨城:筑波大学外国語教育センター.
- 大友賢二 (1996) 『言語テスト・データの新しい分析法 項目応答理論入門』, 東京:大修館書店.
- 鎌田修 (1998) 鎌田修・川口義一・鈴木睦編 「OPI」, 『日本語教授法ワークショップ』, 東京:凡人社.
- 小林典子・フォード丹羽順子・山元啓史 (1996) 「日本語の新しい測定法 [SPOT]」,

- 『世界の日本語教育』6, 東京: 国際交流基金.
- 斉藤信浩・玉岡賀津雄・母育新 (2012) 「中国人日本語学習者の文章および文レベルの理解における語彙と文法能力の影響」, 『ことばの科学』25, 愛知: 名古屋大学言語文化部言語文化研究会.
- 静哲人 (2007) 『基礎から深く理解するラッシュモデリング 項目応答理論とは似て非なる測定のパラダイム』, 大阪: 関西大学出版会.
- 豊田秀樹 (2002) 『項目反応理論 入門編』, 東京: 朝倉書店.
- 中村洋一 (2002) 大友賢二監修 『テストで言語能力は測れるか 一言語テストデータ分析入門一』, 東京: 桐原書店.
- 野口裕之・倉元直樹 (2009) 「外国語としての日本語能力測定を支えるテスト理論」, 『クオリティ・エデュケーション』2, 京都: 国際教育学会.
- 長谷川由起子・曹美庚・大名力 (2010) 「韓国語教材における語彙使用頻度調査研究」, 福岡: 九州大学大学院言語文化研究院.
- フォード丹羽順子・小林典子・山元啓史 (1995) 「日本語能力簡易試験 (SPOT) は何を測定しているか 一音声テープ要因の解析」, 『日本語教育』86, 東京: 日本語教育学会.
- 磯田貴道・廣森友人 (2004) 三浦省吾監修, 前田啓朗・山森光陽編, 『英語教師のための教育データ分析入門』, 東京: 大修館書店.
- 宮内俊慈・平田裕・小山揚子 (2006) 「プレースメント用リスニングテスト改善報告」, 『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』16, 大阪: 関西外国語大学留学生別科.
- 宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘 (2011) 「日本語語彙テストの開発と信頼性—中国語を母語とする日本語学習者によるテスト評価—」, 『広島経済大学研究論集』34(1), 広島: 広島経済大学.
- 宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘 (2014) 「日本語の文法能力テストの開発と信頼性: 一日本語学習者のデータによるテスト評価—」, 『広島経済大学研究論集』36(4), 広島: 広島経済大学.
- 大和祐子・玉岡賀津雄・初相娟 (2013) 「中国人日本語学習者のテキストのオンライン読みにおける語彙と文法能力の影響」, 『日本教科教育学会誌』36(1), 広島: 日本教科教育学会.
- 楊元・酒井たか子・小林典子 (2012) 「言語テスト「SPOT」の難易度に影響を与える要因—選択肢の効果について—」, 『国際日本研究』, 茨城: 筑波大学大学院人文社会科学部国際日本研究専攻.

## (2) 朝鮮語文献

- 김광해 (1989) 『고유어와 한자어의 대응 현상』, 서울: 탑출판사.

(3) 英語文献

- Arbuckle, J. L. (2009). *AMOS 18.0 User's Guide*. America : Chicago IL SPSS Inc.
- Frederick, J. Gravetter and Larry, B. Wallnau (2000) *Statistics for the Behavioral Sciences (eds)5th*, United Status of America: Wadsworth.
- Lord, M. F. (1952) *A theory of test scores*, Psychometric Monograph, No. 7, United Status of America: Wadsworth.
- Miura, Seishin (2002) *Grammaticality judgments as measurements of linguistic competence: A case study of Japanese EFL learners*. ARELE (Annual Review of English Language Education in Japan) 13, Tokyo: Japan Society of English Language Education (JASELE).
- Nitko, A. J. (1983) *Educational Tests and Measurement: An Introduction*, United Status of America: Harcourt Brace Jovanovich, Inc.

( 齊藤信浩 九州大学准教授 )  
( 玉岡賀津雄 名古屋大学大学院教授 )

## 付錄 1 (Appendix 1)

## 한국어 어휘 능력 시험

- 1    오늘은 일을 빨리 끝내서 한가하고 (            ).
- a 달콤합니다    b 깔끔합니다    c 느긋합니다    d 딱딱합니다
  
- 2    (            )을 입고 밖에 나가면 안 됩니다.
- a 전통            b 내복            c 자음            d 우편
  
- 3    롯데 호텔은 너무 (            ).
- a 반갑습니다    b 맵습니다        c 그렇습니다    d 큼니다
  
- 4    오늘은 날씨가 (            ).
- a 따뜻합니다    b 큼니다            c 비쌉니다        d 작습니다
  
- 5    한국요리 중에서 김치가 가장 (            ).
- a 조용합니다    b 유명합니다    c 시원합니다    d 미안합니다
  
- 6    이 영화는 너무 (            ).
- a 빨강습니다    b 슬픉니다        c 맞습니다        d 이렇습니다
  
- 7    이 가방은 너무 (            ).
- a 늦습니다        b 같습니다        c 슬픉니다        d 무겁습니다
  
- 8    한국은 미국,일본,중국과의 관계가 (            ).
- a 조용합니다    b 유명합니다    c 건강합니다    d 중요합니다
  
- 9    저는 밤 11:00에 (            ).
- a 잡니다            b 모릅니다        c 견습니다        d 섭니다
  
- 10   10:00부터 영화가 (            ).
- a 노력합니다    b 공부합니다    c 시작합니다    d 식사합니다
  
- 11   유학중에는 건강에 (            ).
- a 연습합니다    b 조심합니다    c 출발합니다    d 준비합니다
  
- 12   (            )에서 일합니다.
- a 노래            b 나이            c 값                d 가게

- 13 백화점의 식당에서 가족과 ( ).  
a 도착합니다 b 식사합니다 c 노력합니다 d 이해합니다
- 14 회사 ( )에 호텔이 있습니다,  
a 뒤 b 개 c 배 d 비
- 15 ( )을 하면 안 됩니다.  
a 얼굴 b 거울 c 거짓말 d 마음
- 16 제 방에 ( )가 많이 있습니다.  
a 소리 b 쓰레기 c 키 d 이
- 17 우리 ( )에는 좋은 식당이 있습니다.  
a 오후 b 회사 c 문제 d 전화
- 18 숙제를 해 주셔서 ( ).  
a 감사합니다 b 조용합니다 c 유명합니다 d 재미있습니다
- 19 ( )에서 한국어 사전을 샀습니다.  
a 경제 b 서점 c 관심 d 경치
- 20 저는 스포츠는 잘하지만 한국어는 ( ).  
a 서투릅니다 b 가렵습니다 c 느끼합니다 d 그럽습니다
- 21 학생들 앞에서 발표하는 것은 ( ).  
a 검습니다 b 깊습니다 c 부끄럽습니다 d 그럽습니다
- 22 만년필로 쓰니까 글자가 너무 ( ).  
a 뻥합니다 b 달콤합니다 c 괴롭습니다 d 질습니다
- 23 지갑에 돈을 ( ).  
a 건넵니다 b 눕습니다 c 넣습니다 d 벗습니다
- 24 갑자기 시험이 있다고 하면 ( ).  
a 명랑합니다 b 위대합니다 c 황당합니다 d 적절합니다
- 25 사진을 찍을 때는 카메라의 초점을 ( ).



(58)

朝鮮學報 (第233輯)

- a 맞춥니다      b 무너집니다      c 거둡니다      d 토합니다
- 26 신문을 버리기 전에 끈으로 잘 (            ).  
a 묶습니다      b 토합니다      c 구만듭니다      d 헤웁니다
- 27 (            )들이 선생님한테서 주의를 받았습니다.  
a 개구쟁이      b 고구마      c 구이      d 꼬리
- 28 이 노래를 들으면 학생 시절이 (            ).  
a 기억납니다      b 인정받습니다      c 과장합니다      d 마련합니다
- 29 어머니는 아버지가 늦게 돌아오면 자주 큰 소리로 (            ).  
a 구룹니다      b 살립니다      c 따집니다      d 미끄러집니다
- 30 파티에서 친구들과 이야기를 해서 (            ).  
a 담백합니다      b 유쾌합니다      c 솔직합니다      d 엄격합니다
- 31 선생님은 학생이 하는 답을 실수라고 (            ).  
a 책임집니다      b 단정합니다      c 수선합니다      d 기억납니다
- 32 아이가 나쁜 일을 하면 아버지가 그 일을 (            ).  
a 독해합니다      b 마련합니다      c 책임집니다      d 횡당합니다
- 33 이메일을 써서 결석하는 것을 학교에 (            ).  
a 도착합니다      b 연습합니다      c 결혼합니다      d 연락합니다
- 34 밭에서 넘어져서 옷이 (            )으로 더러워졌습니다.  
a 마당      b 가뭄      c 흙      d 뱀
- 35 저 사람은 (            )가 이상한 걸 보니 아마 외국인일 것입니다.  
a 그네      b 밤새      c 무늬      d 말투
- 36 역에서 아버지를 (            ).  
a 갑니다      b 잡니다      c 끝냅니다      d 기다립니다
- 37 선물을 (            )로 예쁘게 싸았습니다.  
a 피부      b 유적지      c 종교      d 포장지

- 38 신문을 ( ).  
a 견습니다 b 신습니다 c 죽습니다 d 버립니다
- 39 고등학교 때까지 운동을 했기 때문에 ( )이 좋습니다.  
a 초대장 b 소감 c 체격 d 은천
- 40 고기를 먹지 않고 야채를 먹는 것을 ( )이라고 합니다.  
a 지진 b 용 c 왕 d 채식
- 41 이름은 한글과 ( )로 씁니다.  
a 인기 b 선수 c 세계 d 한자
- 42 휴대폰은 ( ).  
a 편리합니다 b 건강합니다 c 시원합니다 d 미안합니다
- 43 방에 가족 ( )이 있습니다.  
a 성함 b 주말 c 발음 d 사진
- 44 일요일인데 할 일이 없어서 ( ).  
a 한가합니다 b 가능합니다 c 담백합니다 d 솔직합니다
- 45 정보없이 주식을 사면 하루아침에 ( ).  
a 권합니다 b 망합니다 c 택합니다 d 인합니다
- 46 할머니는 마당에서 꽃을 잘 ( ).  
a 넘칩니다 b 가꿉니다 c 미끄러집니다 d 떼어냅니다
- 47 자주 우는 사람을 ( )라고 합니다.  
a 상추 b 울보 c 뿌리 d 글씨
- 48 내일은 시험이 있어서 ( ).  
a 위대합니다 b 공손합니다 c 단정합니다 d 우울합니다

## 付録2 (Appendix 2)

## 語彙能力テスト一覽表

正解	錯乱肢 1	錯乱肢 2	錯乱肢 3	問題文	品詞	レベル	語種	SATOT
감사합니다	조용합니다	유명합니다	재미있습니다	숙제란 해 주셔서 감사합니다.	形容詞	初級	漢字語	6
유명합니다	조용합니다	시원합니다	미안합니다	한국요리 중에서 김치는 가장 유명합니다.	形容詞	初級	漢字語	27
뜩니다	반갑습니다	웁습니다	그렇습니다	롯데 호텔은 너무 뜩니다.	形容詞	初級	固有語	13
따뜻합니다	뜩니다	비쌉니다	작습니다	오늘은 날씨가 따뜻합니다.	形容詞	初級	固有語	44
중요합니다	조용합니다	유명합니다	건강합니다	한국은 미국, 일본, 중국과의 관계가 중요합니다.	形容詞	中級	漢字語	24
편리합니다	건강합니다	시원합니다	미안합니다	휴대폰은 편리합니다.	形容詞	中級	漢字語	25
무겁습니다	늦습니다	갈습니다	습습니다	이 가방은 너무 무겁습니다.	形容詞	中級	固有語	3
습습니다	판갑습니다	맞습니다	이렇습니다	이 영화는 너무 습습니다.	形容詞	中級	固有語	9
한가합니다	가능합니다	답백합니다	순직합니다	일요일인데 할 일이 없어서 한가합니다.	形容詞	中上級	漢字語	32
유쾌합니다	답백합니다	순직합니다	엄격합니다	파티에서 친구들과 이야기할 때는 유쾌합니다.	形容詞	中上級	漢字語	35
서투릅니다	가렵습니다	느끼합니다	그림습니다	저는 스포츠는 잘하지만 한국어는 서투릅니다.	形容詞	中上級	固有語	8
부끄럽습니다	검습니다	깊습니다	그림습니다	학생들 앞에서 발표하는 것은 부끄럽습니다.	形容詞	中上級	固有語	17
우울합니다	위대합니다	공손합니다	단정합니다	내일은 시험이 있어서 우울합니다.	形容詞	上級	漢字語	12
황당합니다	명랑합니다	위대합니다	적절합니다	갑자기 시험이 있다고 들으면 황당합니다.	形容詞	上級	漢字語	41
느긋합니다	달콤합니다	깔끔합니다	딱딱합니다	오늘은 일을 빨리 끝내서 한가하고 느긋합니다.	形容詞	上級	固有語	47
질습니다	편합니다	달콤합니다	괴롭습니다	만년필로 썼으니까 글자가 너무 질습니다.	形容詞	上級	固有語	48
식사합니다	도착합니다	노력합니다	이해합니다	역화점의 식당에서 가족과 식사합니다.	動詞	初級	漢字語	34
시작합니다	노력합니다	공부합니다	식사합니다	10:00부터 영화가 시작합니다.	動詞	初級	漢字語	38
잠니다	모읍니다	결습니다	섭니다	저는 밤 11:00에 잠니다.	動詞	初級	固有語	19
기다립니다	갑니다	잠니다	끝냅니다	역에서 아버지한테 기다립니다.	動詞	初級	固有語	37
연락합니다	도착합니다	연습합니다	결혼합니다	이메일을 써서 결석하는 것을 학교에 연락합니다.	動詞	中級	漢字語	21
조심합니다	연습합니다	출발합니다	준비합니다	유학중에는 건강에 조심합니다.	動詞	中級	漢字語	23
넣습니다	건넵니다	늘습니다	빚습니다	지갑에 돈을 넣습니다.	動詞	中級	固有語	7
버립니다	결습니다	신습니다	죽습니다	신문을 버립니다.	動詞	中級	固有語	15
기억납니다	인정받습니다	피장합니다	마련합니다	이 노래를 들으면 학생 시절이 기억납니다.	動詞	中上級	漢字語	5

正解	錯乱肢 1	錯乱肢 2	錯乱肢 3	問題文	品詞	レベル	語種	SATOT
맞습니다	권합니다	택합니다	인합니다	경보없이 주식을 사면 하루아침에 망합니다.	動詞	中上級	漢字語	20
맞습니다	두너집니다	거듭니다	토합니다	사진을 찍을 때는 카메라의 초점을 맞춥니다.	動詞	中上級	固有語	16
뉘습니다	토펙합니다	구만듭니다	헤뵈니다	신문을 비리기 전에 끈으로 잘 뉘습니다.	動詞	中上級	固有語	31
책임집니다	독해합니다	마련합니다	칭당합니다	아이가 나쁜 일을 하면 아버지가 그 일을 책임집니다.	動詞	上級	漢字語	29
단정합니다	책임집니다	수선합니다	기억납니다	선생님은 학생이 하는 답을 선수라고 단정합니다.	動詞	上級	漢字語	42
가끔니다	넙칩니다	미끄러칩니다	뻬앗습니다	한미는 마당에서 꽃을 잘 가끔니다.	動詞	上級	固有語	39
마칩니다	구뉘니다	살립니다	미끄러칩니다	어머니는 아버지가 늦게 돌아오면 자주 큰 소리로 마칩니다.	動詞	上級	固有語	40
사진	싱합	주말	밭음	방에 가족 사진이 있습니다.	名詞	初級	漢字語	18
회사	오후	문제	전화	우리 회사에는 좋은 식당이 있습니다.	名詞	初級	漢字語	36
가게	노래	나이	값	가게에서 일합니다.	名詞	初級	固有語	11
뒤	개	배	비	회사 뒤에 호텔이 있습니다.	名詞	初級	固有語	43
한자	인기	선수	세계	이름은 한글과 한자로 씁니다.	名詞	中級	漢字語	1
서점	경제	관심	정치	서점에서 한국어 사진을 샀습니다.	名詞	中級	漢字語	22
쓰레기	소리	키	이	제 방에 쓰레기가 많이 있습니다.	名詞	中級	固有語	26
거짓말	얼굴	겨울	마음	거짓말을 하면 안 됩니다.	名詞	中級	固有語	28
포장지	피부	유적지	종교	선물을 포장지로 예쁘게 싸았습니다.	名詞	中上級	漢字語	30
내복	진봉	자음	우편	내복을 입고 밖에 나가면 안 됩니다.	名詞	中上級	漢字語	33
말투	그네	밤새	무늬	저 사람은 말투가 이상한 걸 보니 아마 외국인이 것 같습니다.	名詞	中上級	固有語	10
흙	마당	가뭇	뱀	밭에서 너미워서 옷이 흙으로 더러워졌습니다.	名詞	中上級	固有語	46
채식	지진	용	왕	고기류 먹지 않고 야채류 먹는 것은 채식이라고 합니다.	名詞	上級	漢字語	2
체격	초대장	소감	은천	고등학교 때까지 운동은 했기 때문에 체격이 좋습니다.	名詞	上級	漢字語	4
개구쟁이	고구마	구이	포리	개구쟁이들이 선생님한테서 주의콜 받았습니니다.	名詞	上級	固有語	14
홍보	상추	뿌리	글씨	자주 우는 사람을 홍보라고 합니다.	名詞	上級	固有語	45